

平成 30 年度

文京区議会総務区民委員会 視察報告書

1 視察日程

平成 31 年 2 月 20 日(水)

2 視察先及び目的

岩手県盛岡市

「自治体間交流」に関する調査・研究

3 視察参加者

委員長 前 田 くにひろ

副委員長 国府田 久美子

委 員 森 守

委 員 上 田 ゆきこ

委 員 山 本 一 仁

委 員 萬 立 幹 夫

委 員 岡 崎 義 顕

委 員 海老澤 敬 子

同 行 名 取 顕 一 (文京区議会議長)

随 行 竹 越 淳 (区議会事務局長)

随 行 野 苺 家 貴 之 (区議会事務局議事調査主査)

岩手県盛岡市

■市の概要

【人 口】 293,488 人 (平成31年2月1日現在)

【世帯数】 132,119 世帯 (平成31年2月1日現在)

【面 積】 886.47 km²

【概 要】

北上平野の北部に位置する県都。江戸時代は盛岡藩の城下町で、岩手山などの山並みに囲まれ、市街地には幾筋もの川が流れ、古い町家や街並が残る。東北新幹線と秋田新幹線、東北縦貫自動車道、国道などが通る交通の要所で、北東北の玄関口となっている。

平成18年に玉山村と合併し、平成20年に中核市となり、平成21年に市制施行120周年を迎えた。

戦略プロジェクトとして、地域経済の好循環を促進するための「食と農・ものづくり応援プロジェクト」では、農畜産物の高付加価値化や、販路拡大、企業進出や既存企業の拡充の受け皿となる工場用地の不足解消などを進めている。また、子ども・子育てを支援する「みんなが支える子ども・子育て安心プロジェクト」や、交流人口の拡大を図る「2020 あつまる・つながるまちプロジェクト」を展開している。



▲ 石川啄木記念館に隣接する旧洪民尋常小学校にて（右から4番目は石川啄木記念館館長 森 義真氏）

「自治体間交流」に関する調査・研究

1 視察目的

文京区と盛岡市は、石川啄木「生誕の地」と「終焉の地」を縁として、これまで災害時や文化交流等に係る協定を締結してきたが、この度、両区市の間において、特定の分野に限定した協定から、様々な分野における包括的な協力関係を内容とする友好都市提携が行われることとなった。

現地においてその内容を学び、理解を深めることで、今後、本委員会での自治体間交流のあり方等についての議論を一層充実したものにするとともに、文京区の今後の都市間交流施策等への提言に生かすことを目的として視察を実施した。

2 視察先

石川啄木記念館（岩手県盛岡市洪民字洪民9番地）

3 説明者

石川啄木記念館館長 森 義真 氏

4 視察先概要

(1) 石川啄木記念館

啄木生誕100年を記念し、昭和61年に建築されたモダンな白い建物は、啄木の詩集『呼子と口笛』の中の「家」をイメージしている。館内には啄木の直筆ノートや書簡、日記をはじめとした生活用具、啄木が代用教員時代に使用したオルガン、遺品などおよそ300点が展示されている。洪民、盛岡、北海道、東京（文京区）と、放浪の人生をたどりながら、啄木文学の背景を知ることができる。



▲ 石川啄木記念館 外観

＜石川啄木記念館 視察の様子＞



(2) 旧渋民尋常小学校

明治17年に建てられた旧渋民尋常小学校は盛岡市指定文化財に指定され、明治初期の面影を現在に伝え、現存する学校校舎としては岩手県内で最も古い建物の一つである。啄木が幼少期に通った学校で、啄木はここでの思い出を、次のような短歌に残している。

その昔 小学校の柱屋根に我が投げし鞆 いかにかなりけむ

大人になってからはこの学校で代用教員として教鞭をとり、「余は日本一の代用教員である」（渋民日記・明治39年）と自負し、課外授業では英語を教えるなど熱心に指導した。



▲ 旧渋民尋常小学校 外観



▲ 2階の教室

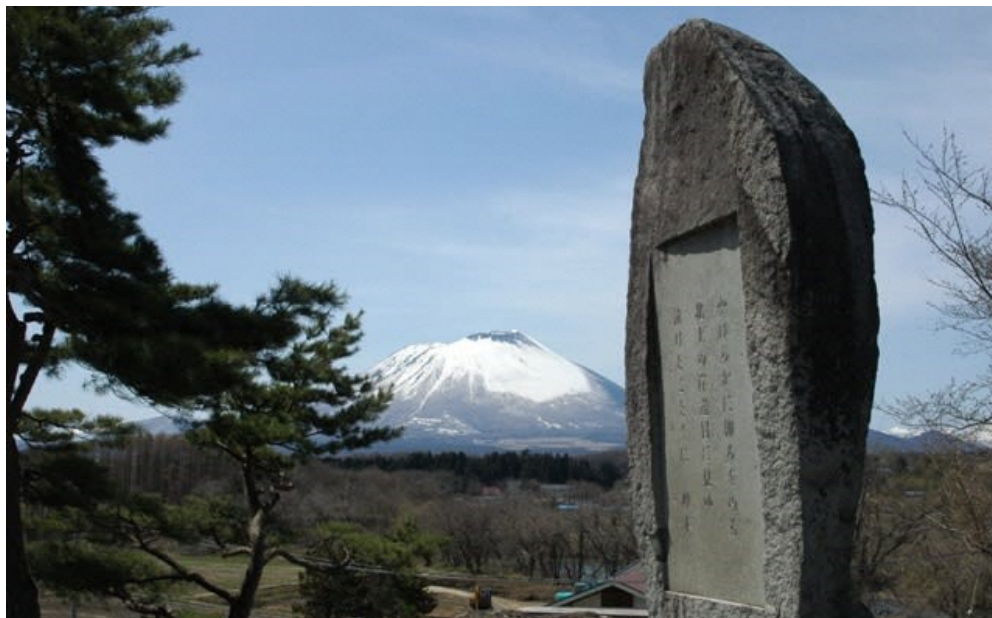


▲ 啄木が愛用したリードオルガン

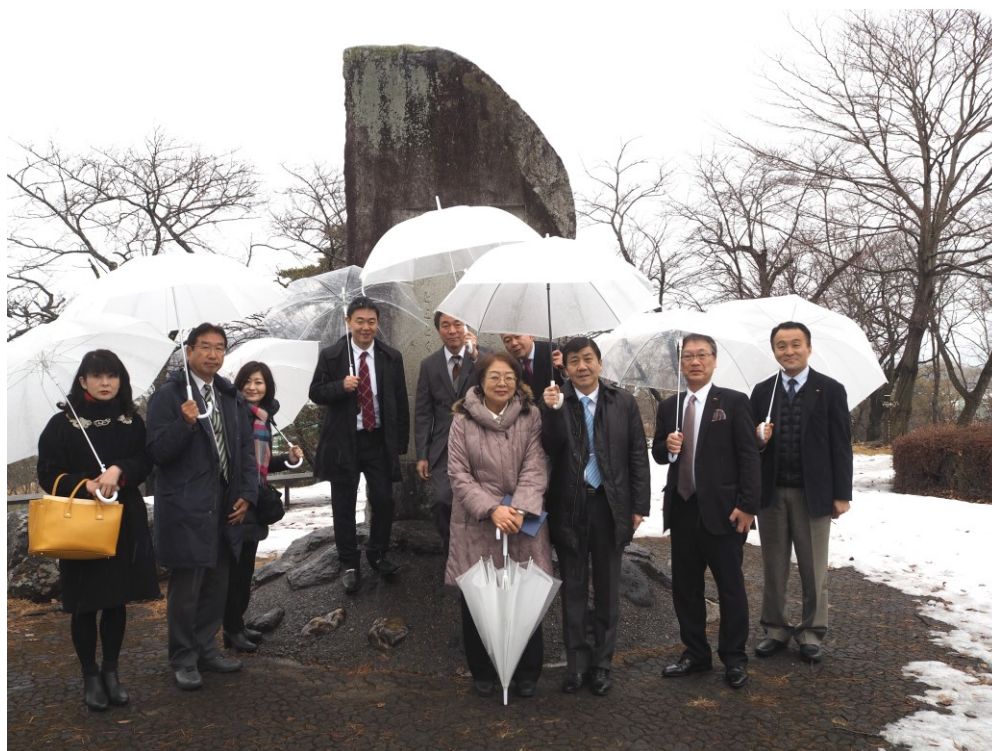
(3) 啄木第一号歌碑

渋民公園内の鶴飼橋の上の小高い丘に位置する、大正11年に完成した啄木第一号の歌碑。高さは4.5m。次の歌が記されている。

やはらかに柳あをめる 北上の 岸辺目に見ゆ 佐けとごとくに



▲ 啄木第一号歌碑（晴れた日に岩手山を望む）



▲ 啄木第一号歌碑にて（当日は、小雪が舞う中での視察となった）

5 関連参加事業

(1) 文京区・盛岡市友好都市提携記念碑除幕式

日時 平成31年2月20日（水）午後1時30分

会場 盛岡駅前広場「滝の広場」

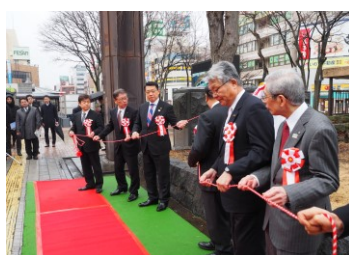
主催 盛岡市・文京区友好都市提携記念実行委員会

<記念碑概要>

- ・高さ1 m50 cm(土の上からは1 m20 cm)、横幅1 m 5 cm、奥行30 cm
- ・使用石材は「姫神小桜石」、提携書部分には「黒御影石」を使用
- ・「文京区」、「盛岡市」、「友好都市提携記念碑」の文字は、立合人の石川 真一氏(石川啄木の孫)による揮毫(きごう)



▲ 文京区・盛岡市友好都市提携記念碑



(2) 文京区・盛岡市友好都市提携調印式

日 時 平成 31 年 2 月 20 日 (水) 午後 2 時 30 分

会 場 ホテルメトロポリタン盛岡ニューウイング
4階「メトロポリタンホール」

出席者 成澤 廣修文京区長、谷藤 裕明盛岡市長、石川 真一氏 (立会人)



▲ 友好都市提携調印式の様子

(左から、名取 顕一文京区議会議長、成澤 廣修文京区長、石川 真一氏 (立会人)、
谷藤 裕明盛岡市長、天沼 久純盛岡市議会議長)



(3) 文京区×盛岡市 友好都市提携記念講話

日時 平成31年2月20日(水)午後3時00分
会場 ホテルメトロポリタン盛岡ニューウィング
4階「メトロポリタンホール」
講師 金田一 秀穂氏(杏林大学外国語学部教授)
テーマ 「京助と啄木 贈与とグリット」



©タカオカ邦彦

「京助と啄木
贈与とグリット」

文京区×盛岡市 友好都市提携記念講話

講師 金田一 秀穂 氏
(杏林大学外国語学部教授)

【講師プロフィール】

1953(昭和28)年、東京生まれ。
言語学者。祖父は同じく言語学者で盛岡市唯一の名誉
市民、金田一京助氏。父は国語学者の金田一春彦氏。
東京外国語大学大学院終了。中国大連外語学院、
米イェール大学、コロンビア大学などで日本語
講師を務めた後、1988年より杏林大学で教鞭を
執っている。
日本テレビ系「世界一受けたい授業」など
テレビ出演多数。

▲ 記念講演のチラシ

(4) 文京区・盛岡市 友好都市提携記念レセプション

日 時 平成 31 年 2 月 20 日 (水) 午後 4 時 00 分

会 場 ホテルメトロポリタン盛岡ニューウィング
4 階「メトロポリタンホール」

主 催 盛岡市・文京区友好都市提携記念実行委員会

参列者 <立会人等> 石川 真一氏ほか

<盛岡市> 市長、市議会議員、市議会議員、副市長、教育長、各部
等の長 ほか

<文京区> 区長、区議会議員、総務区民委員会委員 ほか

<来賓> 金田一 秀穂氏、森 義真氏 ほか

<その他> 実行委員会委員及び各団体の長 ほか

【概要】

開会挨拶、オープニングセレモニーの後、谷藤 裕明盛岡市長、成澤 廣修文京区長、来賓による挨拶が行われ、名取 顕一文京区議会議員の発声によりスタート。

区が行う「子ども宅食プロジェクト」に賛同いただいた新岩手農業協同組合及び岩手中央農業組合より、区に対し、合計 1.2 トンの白米の寄贈があった。

また、アトラクションとして、「盛岡さんさ踊り実行委員会」による踊りが披露され、会場を盛り上げた。



(左) 名取 顕一文京区議会議員による乾杯の発声

(右上) 両農業協同組合から区に対しての白米の寄贈

(右下) 「盛岡さんさ踊り実行委員会」による踊り

視察を終えて

前田 くにひろ 委員長

盛岡市視察をしての感想

今回の視察は、一日という短い時間でしたが、実りの多い視察となりました。

<熱意ある人材の発掘>

まず、石川啄木記念館の森館長より、啄木のことや盛岡市についてお話をいただき、熱い思いを持っていることが伝わりました。文化行政については、関わる人が地域や人物が好きであることや思い入れがあることが大切であり、そうした人材の確保の重要性を改めて認識しました。

<自治体相互での政策課題の解決への協力>

また、両区市が友好都市として結ばれましたが、早速、地元の農協から子ども宅食プロジェクトへお米を寄贈していただくなど、自治体同士で仲良くなることで、それぞれが抱えている政策を実現するための力になることが実感できました。

<金田一先生の講話から>

さらに、金田一先生から、石川啄木と金田一京助との出会いについて、お話をいただきました。二人の関係が、一方が見返りなしに経済的な支援を行いそれが嬉しかったという「贈与」の関係であること。そして、両者が、それぞれ人生をかけて、好きなことを夢中でやっていたことを知ることができました。そうした関係性や生き方を伺うことで新しい社会のあり方を示していただいた貴重な機会となりました。

国府田 久美子 副委員長

文京区とふるさと盛岡市が「友好都市」になった！

石川啄木生誕の地である盛岡市と終焉の地である文京区の友好都市提携調印式で、盛岡に。調印に先立ち行った、啄木が代用教員をした旧渋民尋常小学校は、その佇ま

いが啄木の時代にタイムスリップしたよう。

調印式には、啄木のひ孫の石川真一氏（啄木の面影あり）が立ち会い、啄木を支えた金田一京助の孫の秀穂氏が記念講演。演題は「京助と啄木、贈与とグリット」—これは、京助は自分がとても及ばない天才啄木を金銭的に支え（贈与）、啄木はグリット（やり抜く力=やめない力=物好きの凄さ）を持つ天才だったという意味らしい。演題に納得。

啄木は、一晩に 50 首も 100 首も短歌を詠んだという。また、京助に宛てた手紙に、6 m もの長さの巻紙に書いたものがあるそうだ。こういうところが“グリット”の所以か。碑の除幕式、レセプションも両者の暖かく細かいご配慮で、本当に立派ですばらしかった。

渋民への車中でずっと啄木の話をして下さった、啄木記念館の森義真（よしまさ）館長と私の叔父が宮澤賢治や石川啄木の研究で旧知だった事がわかり、これもご縁。両自治体がさらに交流と友好が深められるよう、私も微力を尽くしたい！

森 守 委員

岩手県盛岡市の視察を終えて

今回の視察は、盛岡市との友好都市提携調印式も兼ね、文豪石川啄木との縁で盛岡市を視察した。啄木は盛岡市出身で多くの作品を残している。特に文京区で亡くなっているが、その時代の作品「一握の砂」など優れた作品がある。盛岡市には、その啄木の遺品 300 点が展示されている「石川啄木記念館」があり、啄木の直筆のノート、日誌等の遺品が展示されており、啄木の研究には、見る価値は充分にある。また、隣地には啄木が通った旧渋民尋常小学校が移築されており、入口の庭には「啄木と子どもたち」と題した銅像がおかれ昔が忍ばれる。

友好都市の調印に先立ち、盛岡駅前では記念碑の除幕式が行われ、報道各社を含め多くの関係者が見守る中で除幕式が行われた。そして、盛岡市と文京区との調印式では、盛岡市の谷藤市長と文京区の成澤区長が厳粛の中で調印し、立会人として啄木のひ孫

にあたる石川真一様が見守った。今後、両区市の取組は、市民、行政、様々な団体の交流が行われることが予想されるが、実りある交流が未来永劫続くことが重要であり、その一員である、私達も取り組んでいく必要があると考える。

上田 ゆきこ 委員

盛岡市との友好都市提携記念式典及び記念碑除幕式に参加して

石川啄木記念館館長とともに記念館を見学した。以前、総務区民委員会視察でも訪れたことがあったが、金田一京助との友情の深さに改めて感銘を受けた。盛岡中学時代の金田一の短歌の「巧さ」にも感心した。金田一は啄木の才能に触れ、作歌を諦めたとの解説だったが、平易でストレートな啄木の表現は後で金田一秀穂氏が講演で谷川俊太郎さんを例に出したように確かに人の心に響くものである。一晩に 50 首も作歌したという情熱こそ天才の証で、そう考えれば、かつて啄木学級で故渡辺淳一氏が「多作で駄作も多い」と評したこととも矛盾しない人物像が統合される。

前に不來方のお城の下の橋の上で見て感動した岩手山が見られなかったのは残念。まさに、「ふるさとの山はありがたきかな」の感を委員たちと共有したかった。

市庁舎の横断幕にも驚いた。本庁舎のみならず支所にも掲示されていて、とても嬉しく拝見した。文京区もこのような心のこもったおもてなしができるようにしなければと思う。

記念碑は盛岡駅の真ん前の繁華なところに設置されていて、これから多くの駅利用者に見られると思うと盛岡市との友好を目に見える形でしっかりつなげていきたいと思う。

式典に子孫の方たちに同席していただいたのも素晴らしい演出で、金田一秀穂氏の講演で話された文京区で繰り広げられた盛岡出身の文士たちの文学にまつわる物語に深い感銘を受けたと同時に、大切にふるさと歴史館や森鷗外記念館、区役所での展示等で伝えていきたいと感じた。

山本 一仁 委員

盛岡市との友好都市締結に際して

平成31年2月20日、総務区民委員会の行政視察として、盛岡市の石川啄木記念館の視察及び友好都市提携調印式に出席させて頂きました。記念館の他、石川啄木が教壇に立った旧渋民尋常小学校も視察させて頂きました。今回の視察は、盛岡市が生誕地、そして文京区が終焉の地という石川啄木繋がり、生誕の日の2月20日に合わせて、友好都市の調印式と記念レセプションが開催されました。調印式では、石川啄木のひ孫になる石川真一さんにも同席をして頂いて、式典に花を添えて頂きました。また、地元のさんさ踊りが披露され、盛岡市議会の皆様とも交流を深めさせて頂きました。今後は、民間レベルでの自治体間交流が進むよう希望するところです。そして、区が実施している、自治体交流事業の補助対象の地域になって、更に交流が進んでいくよう期待するところです。

萬立 幹夫 委員

友好都市提携式等に参加して

石川啄木の生誕地である盛岡市渋民の啄木記念館近くにある歌碑、2015年に小石川に建立された「石川啄木終焉の地歌碑」、そして今回、友好都市提携式で除幕された記念碑いずれも、啄木の故郷の姫神小桜という淡いピンク色がかかった花崗岩が使われています。記念碑除幕式や友好都市提携調印式、レセプションでの関係者の話の中に、啄木がこよなく故郷を愛したことが語られました。

また、ほとんどの作品を文京区内で書きとめ、6回も住まいを変えながらも文京区を愛し、離れなかったことも驚きでした。

友好都市提携調印式の後の、啄木と親交の厚かった金田一京助氏の孫、秀穂氏の特別講演。当時の京助氏と啄木の興味深い「友情」が語られ、『贈与、グリット』を興味深く聞きました。「グリット」とは一般的に、困難な問題や高い壁にぶつかっ

てしまっても諦めない心—などと言われますが、京助氏の見返りを求めず人に尽くす、儲けにならないことでも一生懸命に仕事する…などの逸話が、とても新鮮でした。秀穂氏の「効率性や有効性、費用対効果ばかりの追求ではだめ」との指摘は、今の社会への警告のように聞こえました。

今後の両自治体の友好が、さらに発展することを望みます。

岡崎 義顕 委員

文京区・盛岡市友好都市提携調印式に参加して

石川啄木「生誕の地」である盛岡市と「終焉の地」文京区との友好都市提携調印式に出席するために盛岡市を訪れました。それに先立ち、石川啄木記念館を視察して来ました。

同記念館は、啄木がかつて理想の「家」を詩に託した白い西洋風のイメージの外観で造られ、館内は啄木文学の原点から終焉までの啄木の直筆書簡や日誌の他、遺品、写真パネルなどが展示されておりました。又、敷地内には啄木が代用教員を務めた旧渋民尋常小学校や一家が間借りした旧斎藤家が移築されており、当時の雰囲気を感じることができました。盛岡市の皆様の啄木を愛する強い思いを感じる記念館でした。

又、友好都市提携書が刻まれた記念碑の除幕式にも参加しました。記念碑には、啄木のひ孫にあたり今回の調印の立会人でもある石川真一氏が揮毫され、盛岡駅の正面に建てられていました。

今後、この調印を契機に災害時や文化交流などの特定の分野にとどまらず、スポーツ、産業等あらゆる分野で交流を促進することになり、更に市民同士の交流が深まっていくことに期待します。今回の視察でこれからの自治体間交流のあり方を学ばせていただきました。

海老澤 敬子 委員

文京区・盛岡市友好都市提携で思うこと

盛岡市と文京区は、石川啄木「生誕の地」と「終焉の地」を縁として、今まで災害時などの協定を締結してきましたが、このたび石川啄木の誕生日である2月20日に盛岡市にて「友好都市提携」を締結いたしました。その調印式に総務区民委員会のメンバーで同席いたしました。

初めて委員会として調印式に立会い、盛岡市の方々との交流や、啄木記念館の森館長に案内いただき「啄木第一号歌碑」や啄木が教鞭をとった「旧渋民尋常小学校」を見学させていただいたことで、勉強になると同時に、改めて盛岡市の方々の啄木に対しての深い愛を感じることができました。

また、金田一秀穂氏の記念講演では、「啄木」と「金田一京助」さんの友情と、天才が存在し天才を支える人がいる、しかし天才を支える事もまた喜びなのだとわかりました。講演をいただいた金田一氏を始め、宮澤賢治や新渡戸稲造など文京区と盛岡市にゆかりのある方々はたくさんいます。今後は、さらにこのご「縁」を拡大していけたらと考えます。

例えば、盛岡市にある「啄木かるた」です。すでに函館とは毎年「啄木かるた」大会を開催しているそうです。この大会に文京区の子ども達も参加し、盛岡市だけではなく函館の子ども達とも交流ができれば素敵ではないでしょうか。

文化面だけではなく、産業やスポーツなど多方面にわたっての交流を今後も進めていけるように議員として応援してまいります。